

松坡田辺新之助と松坡文庫

1. 田辺新之助 (1862～1944 号は松坡)

田辺新之助は東京開成中学校校長を務め、逗子開成中学校・高等学校の前身である第二開成学校、鎌倉女学院中学校・高等学校の前身である鎌倉女学校の創設者で、優れた教育者であった。また、明治中期から亡くなるまで、日本を代表する漢詩人の一人として詩壇で重要な役割を果たした。長く鎌倉に住み、鎌倉の文化的発展に大きく貢献した文化人である。

・ 誕生から教員になるまで

田辺新之助は文久2年1月8日（西暦1862年2月6日）、中堅の唐津藩士田辺幸左衛門正周の次男（長男は夭逝）として江戸深川高橋の唐津藩下屋敷で生まれた。名は正守、字は子慎、称を新之助。

幕府瓦解に伴い、明治元（1868）年7歳で唐津に戻り、同地の儒学者で佐藤一斎の下で学んだ山田忠蔵に和漢学を学び、また、唐津藩耐恒寮の英語教員として赴任してきた高橋是清には私的に英語を学んだ。15歳で唐津伝習所を卒業し、小学校教師の資格を得、更に唐津準中学校に学んだ。『佐賀県教育史』には、唐津伝習所時代の新之助ら有為の生徒の熱心な学習態度に感動した郡区長の尽力で唐津準中学校が設立されたと記されている。

唐津での学習に飽き足らなかったのか、或いは一回り近い年長の先輩たち（辰野金吾や曾禰達蔵ら）が上京して学問に励んでいたこともあったのか、或いはまた、帰京して大学予備門で教鞭をとっていた高橋是清の勧めがあったのか、明治11（1878）年9月、17歳の新之助は上京し、東京大学予備門に入学、普通学を修めることになった。予備門では高橋是清が英語を教えていた。この間、新之助は幼い頃から親しんでいた漢学の勉強も続けていた。

明治14（1881）、20歳で大学予備門を修了すると、翌年1月には高橋是清が校長を務めていた私立共立学校の英語地理教授となった。後年、新之助は高橋是清の推薦によるものだったと述懐している。

・ 共立学校教授・開成中学校校長、第二開成学校と鎌倉女学校設立

共立学校は「専ら他日東京大學豫備門ニ入ラント欲スル者ノ爲メニ必用ナル學科ヲ教授スル所トス」ということを学校規則第一条に定めており、夏目漱石は「私の経過した学生時代」という談話の中で「共立学舎、成立学舎等の塾舎は随分汚いものであったが、授くところの数学、歴史、地理などいうものは、皆原書を用いていた位であるから、なかなか素養のない者には、非常に骨が折れたものである」と語っている。

新之助は明治30（1897）年10月に、2年前に東京府立に移管し開成尋常中学校と改称していた学校の校長となった。36歳であった。田辺新之助校長のもと、明治34（1901）年4月には私立学校に復帰、私立東京開成中学校と名を改め、分校創設に動き出す。明治36（1903）年4月18日、石田羊一郎・橋健三・太田澄三郎らと逗子池子に設立したのが各種学校第二開成学校であった。42歳の新之助はその初代校長となった。田辺新之助は一時校長職を太田澄三郎に託すが、ボート遭難事故後の窮状の中、大正2（1913）年10月

に校長を辞任するまで、よき教員・校長であった。第二開成学校はこの間、第二開成中学校として認可され、明治 42 (1909) 年 7 月 27 日には私立逗子開成中学校として東京開成中学校から分離独立した。

田辺新之助はまた明治 37 (1904) 年に鎌倉女学校を設立し、その校長となった。同時に三校の校長を兼ねていたことになる。

鎌倉女学校の校長は昭和 9 (1934) 年まで務めることになる。

・ 教育者としての田辺新之助

新之助は共立学校では英語地理教授として仕事をしていた。斎藤茂吉は「私の困った学科」という随筆の中で、英語が苦手で、英語が進んでいた開成ではさつぱり分からなかったが、田辺先生の「嚙んでくくめる」ような教え方によって、英語の時間がもっとも億劫でなくなり、厭でなくなった、と述べている。石田羊一郎先生と共著で、*A new English speller for the use of Japanese students.* という教科書を丸善から出版している。

地理教授としては富山房から普通学全書の第 20 篇として『万国地理新書』を出版したことが注目される。C.B.Clarke (1832~1906) の *A Class-Book of Geography* (1878) に倣ったもので、講義録がもとになっている。教科書・参考書として利用されたためか、版を重ねている。

・ 漢詩人としての田辺松坡

幼少時から漢学に親しんでいた新之助は上京後、岡本黄石 (1811~98)・大沼枕山 (1818~1891) に漢詩を学んだ。松坡の号を得たのは 23 歳の時。東京市麴町区下二番町の小笠原子爵邸での「搜天吟社」で中澤機堂 (1821~1896 唐津藩西洋砲術教授、アーネスト・サトウの日本語教師。後に集衆議院議員。明治 20 年故郷に帰り、大成校、現在の唐津東高等学校の教師。) から与えられた。30 代で将来を嘱望されるに至り、晩翠吟社では向山黄村没 (1897) 後、添削の重責を果たした。明治 28 (1895) 年に出版された『名家談叢』には「漢詩の二大派」という談話が掲載されており、30 代前半の松坡が名家の一人に数えられていることがわかる。『明治二百五十家絶句』(明治 35 年) には絶句十首が収録されている。また、この間、『毎日新聞』詩壇の選者となっている。立正大学でも漢詩文を講じた。

松坡は「一度筆をとれば連珠の章たちどころになる、其の創作する所極めて多く皆金玉の譽あり」と評価されている漢詩人だったが、自ら詩作するだけでなく、著名な漢詩人の詩集を編んでもいる。『明十家詩選』(1902)、杉浦梅潭の『梅潭詩鈔』(1902)、樺山資紀の『二松庵詩鈔』(1935) などが著名である。

松坡はまた幾つかの詩社で指導的役割を果たした。故郷唐津の芙蓉詩社では撰者を務め、同社の詩会 300 回 (創立 25 周年) を記念し、『芙蓉帖』と題された詩画帖を制作している。明治末から亡くなるまで住むことになった鎌倉では「松社」を主宰し『松社同人集』(1938) を編んでいる。鎌倉・逗子・横浜・東京在住の同人 29 名の詩が収められている。逗子では上村売剣が設立した漢詩塾「声教社」から多くの数の漢詩注釈書を発行している。

今日では漢詩は私たちの文化生活からほぼ消えてしまったかのようで、漢詩人としての田辺松坡の名を知る人も多くはないが、『明治漢詩文集』(明治文学全集第六十二巻 筑摩書房 1973) には松坡の漢詩三編と略歴が収められている。

・「文化人」としての活動

明治末に鎌倉に居を移した新之助は古くからの風雅な町鎌倉の文化的発展にも大きな役割を果たした。大正4(1915)年に発足し、今日でも活動を続けている「鎌倉同人会」の会の命名は新之助によるものであり、格調高い設立趣意書の草稿も新之助が書いた。また、鎌倉青年団(鎌倉青年会、鎌倉町青年団、鎌倉市青年団と改称)が鎌倉同人会の活動に刺激を受けて、1918年から1941年に鎌倉に建立した77基の石碑(旧跡保存指導標)の撰文は新之助の手になるものが多い。指導標は今日でも鎌倉を訪れる者たちに旧跡を偲ぶよりどころとしての役割を果たしている。

漢詩人であった新之助が詩社を主宰していたことについては既に述べたが、それ以外の場でも漢詩文の指導にあたっていたことが知られている。

また、多くの文化人との交流の中で、それまで親交のなかった文化人どうしを結びつけることにも積極的だった。優れた若い書家であった比田井鴻(天来)を徳富蘇峰に紹介する書簡も残されており、比田井は活動の場を拡大していく。交友のあった間島弟彦の遺贈により旧鎌倉図書館建設も実現し、旧図書館前にある間島を称える碑(間島君旌徳碑)には新之助が書いた文章が刻まれている。

鎌倉妙本寺に新之助(松坡)の漢詩を刻んだ詩碑があるので、詩を紹介しておきたい。

海棠花下吟	海棠の花の下に吟ず
嫩葉穠葩緑擁紅	嫩葉穠葩の緑紅を擁す
祇園雨霽洽光風	祇園の雨霽れて光風洽し
山僧説法花陰午	山僧法を説く花陰の午
髻現閻浮七寶宮	髻に現ず閻浮七寶の宮
松坡居士	

・ 家族

新之助は明治16(1883)年広島県土族水谷勝貞の長女エイ(鋏)と結婚し、三男四女をもうけた。長男元(はじめ)は昭和25(1950)年に文化勲章を受賞した哲学者(京都大学教授)。次男至(いたる)は東京美術学校で黒田清輝に学んだ洋画家で東京美術学校教授。鎌倉市市章(ササリンドウ)をデザインしている。三女よしは野沢氏に嫁したが、子の野沢謙は生物学者(京都大学教授・京都大学霊長類研究所所長)、野沢協はフランス文学者(東京都立大学教授)、孫の野沢尚は作家・脚本家として知られる。三男定は若くしてブラジルに移住したが、日記・書簡等が田辺定関係資料として国立国会図書館に保管されている。長女みちは男児出産後若くして死去(享年二十)、次女ひでは結婚し、一女(武子)を産んだが、夫は早くに死去、女手一つで育てた娘は22歳で自死。三女よしはよき伴侶に恵まれ幸せな家庭を営んだ。四女信は生後10日余りで早逝。

・ 死去

永年連れ添ってきた妻鋏とは昭和8(1933)に金婚式を祝ったが、鋏は昭和16(1941)年12月15日に逝去(享年77)。新之助もその3年後の昭和19(1944)年2月24日に83年の生涯を終えた。死因は肺炎。戒名は杏庵松坡居士、墓所は鎌倉寿福寺にある。

2. 松坡文庫と松坡文庫研究会

松坡文庫とは鎌倉市中央図書館が所蔵する田辺新之助（松坡）の漢籍を主とした旧蔵書で、太平洋戦争後に遺族（次男の至氏）から鎌倉市図書館に寄贈されたものである。中には室町末から近世初頭頃の『狭衣物語』の写本などの稀覯本も含まれている。

ところが、その松坡文庫には未整理分が残っており、全貌が把握されるには至っていない。2016年末頃より鎌倉市中央図書館を中心に「松坡文庫」への関心が高まり、2017年度には同館で4回にわたる勉強会が開かれた。講師を務めたのは同館の中田孝信氏、鎌倉女学院元校長の斎藤俊英先生、湘南の別荘研究家で「鎌倉の別荘地時代研究会」の島本千也先生、それに逗子開成中学校・高等学校元校長の袴田潤一。そうした動きの中で、2018年夏、「松坡文庫研究会」が発足の運びとなった。発起人は、図書館とともにだち・鎌倉、鎌倉同人会、鎌倉を愛する会の有志ら5名で、事務局は鎌倉中央図書館に置かれ、同館近代史資料担当者が事務担当。代表は袴田潤一が務めることになった。

松坡文庫研究会の活動は、

1. 松坡文庫の全容把握（松坡旧蔵書の整理）
2. 田辺新之助その人に関する研究
3. 上記1. 2. の公表

を目的とし、「松坡文庫」の全体を明らかにし、田辺新之助（松坡）の業績を正しく評価することにつながることを期している。

現在は、松坡文庫関連資料の調査が中心。月一回の定例研究会で新資料の紹介や田辺松坡の漢詩を講読している。

松坡文庫研究会

代 表 袴田 潤一

事務局 鎌倉市中央図書館・近代史資料室

TEL 0467-25-2611